

# マイトーク

## MY TALK

発行：中央大学放送研究会OB会（会長／水上 虎馬雄）

住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成10年12月1日

## 記念号

平成10年7月25日、中央大学放送研究会の創立45周年を祝う記念パーティーが、東京新宿の京王プラザホテル「コンコードボールルーム」で開催されました。定刻の午後4時30分には、全国から160人以上のOBが集まり、現役30人を加えて世代を超えた和気藹々の時を過ごしました。

### ◆水上OB会会長挨拶

本日は、中央大学放送研究会創立四十五周年の記念パーティーに、OBや現役諸君が多数お集まり戴きありがとうございます。また、後ほど祝辞を頂戴しますが、現在の放研会長でおられる加賀美鐵雄法  
学部教授にもお越しを戴き心から感謝致します。

放研は創立から四十五周年ですが、中央大学が設立されてから百十三年ほどですから、いかに長い歴史を持ったサークル活動であるかが分かります。先ほどのOB総会で、新幹事長に就任した砂岡くんから、大変立派で力強い所信表明がありました。今後、放研が永続発展することを期待します。



水上OB会会長

このように、各世代のOB、現役の皆さんが一堂に会すると、その時代々々の性格が感じとられて興味深いのですが、どうも最近の学生諸君は大人し過ぎるのではないかと思います。昭和四十四年、四十五年の学園紛争は論外としても、学生時代にあまり大人しいのは、これからの日本の将来が案じられる気がします。

大人しいからなのか、このところ放研からマスコミに進む人が年々少なくなっています。それを心配して、今日、司会をしてもらっている日本テレビの吉田くんが講師になり、昨年度から全校に呼びかけて選抜し、アナウンサー講習会を実施しています。その第一期生の中から、今年の採用試験で三人の諸君が見事にアナウンサーに合格し、その一人は中大から十八年ぶりのNHKアナウンサー合格という快挙でした。この講習会は、吉田くんを中心に放研OBのボランティアで運営されていますが、このようにOBが現役の指導にあたってくれることは非常に心強く、私もできる限りの応援をしたいと思っております。

私は、よく年に見えないと言われますが、この九月一日で七十二歳になります。三年ほど前、茨城の学員会の集まりに行ったとき、日立カントリークラブの社長で、なんと八十五歳になる方とゴルフをご一緒しました。その方は、年間、百五十回もゴルフをおやりになり、スコアも八十台で回られています。このような方にあやかっけて長生きをし、これからも放研の歩みを見つめていきたいと考えています。

本日は、多くの懐かしい顔にお会いでき、大変嬉しく思います。皆様のご健勝を祈念して挨拶を終わらせて戴きます。

(要旨)

◆加賀美放送研究会会長祝辞

中央大学放送研究会が創立四十五周年を迎えられましたことは、ここにお集まりのOB各位の並々ならぬご尽力により今日の現役があるということでありまして、心よりお慶び申し上げます。

当時の日本史を振り返りますと、昭和二十八年二月にNHKテレビ、八月に民放テレビが開始されており、まさにその時代に放研も産声を上げたことが実感させられます。私事になりますが、私は昭和三十八年にNHKに入局しました。日米間で初のテレビ中継が実現した年であります。その後、昭和五十三年に中央大学が多摩に移転した際、縁がありまし



加賀美放研会長

てNHKから中大に転職をし、水上先生とも出会い、今日の会長を引き受けることにもなったわけです。

最近では、よくマルチメディア化ということが言われています。私は、現在、中央大学情報研究教育センターの所長をやらされておりますが、このセンターの主目的は大学のマルチメディア化を推進するということでもあります。一つは、中大の情報を外部に発信するコンテンツ（中身）作り、もう一つは、インターネットを含めた外部情報の導入です。ところが、これを突き詰めていくと、大学が放送局を持たなくてはならないという時代にもなりつつあるのです。遠隔授業、外国との授業交換、学内講演会の発信など、ひよっとしたら、再び私は、大学で放送局内を走り回らなくてはならないのかと思いがながら仕事を続けています。

現役の皆さんとは、時に応じて話し合う機会を持つていますが、さらに接点を広げ、放研が五十年、百年と継続していくために、微力ながらも尽力していくつもりであります。

本日はお招きにあずかり、まことにありがとうございます。（要旨）

◆記念パーティー式次第

定刻の午後四時三十分、司会の吉田さん（17期）が「みなさん」と呼びかけ、記念パーティーの幕が切って落とされました。放送席のミスタージャイアンツ、数々の名勝負を全国にお届けする日本テレビの吉田アナの爽やかな進行で、水上OB会会長の挨拶、加賀美放送研究会会長（法学部教授）の祝辞と続き、全員の乾杯へと移りました。

「世の中には多くの乾杯の場面があります。昨今



司会の吉田アナウンサー

ではいろいろと思惑の絡んだ乾杯もあるようですが、この放研四十五周年を祝う乾杯は百パーセント純粹なものであります。放研の益々の発展と、お集まりの皆様をはじめ多くの会員のご健勝を祈念して、高らかに乾杯をしたいと思えます」と、清田さん（1期）の発声により全員乾杯。

通常ならここで歓談に入りますが、「みなさん、その前にもう少しお時間を載せて……」との吉田アナの声に山海の美味はちよっとお預け。ザアルコーが入ってからは後の進行が不安、という実行委員会の苦肉の策で、セレモニー関係は歓談前に全部済ませてしまうプログラムが組まれました。

まずは現役委員長の柳沢くんが会活動の現況報告。続いて、中大から十八年ぶりにNHKアナウン



乾杯をする清田さん

サーに内定した横林くんの喜びの声。若々しく希望に満ちた現役のスピーチに、遠く学生時代に思いを馳せたOB諸氏から激励の拍手が寄せられました。ここで、OB会を代表して皆川さん(7期)から、現役に創立四十五周年の記念品「デジタル映像編集機」を贈呈。現役から「絶対に欲しい」とリクエストされたとのことで、音づくりに青春の情熱を燃やした古参OB諸氏には隔世の感。

さらに、砂岡さん(12期)からデジタル時代を象徴する記念事業の「OB会ホームページ」が披露され、大型スクリーンに投影されるニューメディアに、会場から大きな溜息と拍手が起りました。

◇ やっと歓談 ◇



ホームページを紹介する砂岡さん

あつという間に歓談のひとつが過ぎ、まだまだ話し、飲み、食い足りないところは二次会に持ち越しして、そろそろ「惜別の歌」の時間です。砂岡さんの手作り歌詞カードがスクリーンに流れ、荒井さん(14期)のリードで全員の大合唱となりました。

「会うは別れの始めと言いますが、別ればこそ再会があるのです。短い時間でしたが、再びOB会でお会いすることを楽しみに、これにてお開きに致したいと存じます。二次会、三次会とご予約もあろうかと思いますが、皆様、どうぞ本日中に所定の場所にお帰りになりますよう、老婆心ながら申し添えます」と、熊倉さん(8期)の閉会の辞で一同大きな拍手。恒例の立崎さん(7期)による記念撮影の後、小雨の中を二次会へと繰り出しました。



また会いましょうと熊倉さん

**中央大学放送研究会  
「創立45周年記念式典」プログラム**

司会：吉田填一郎氏(17期)

- 司会挨拶……………吉田填一郎氏
  - 会長挨拶……………OB会会長 水上虎馬雄様
  - 来賓祝辞……………放送研究会会長 加賀美鐵雄様
  - 乾杯……………清田義雄氏(1期・OB会副会長)
  - 現役委員長挨拶
  - 現役記念品贈呈
  - OB会ホームページ紹介…………砂岡茂明氏(12期)
- 歓談 —————
- 惜別の歌合唱
  - 閉会の辞……………熊倉勝利氏(8期・OB会副会長)
  - 記念撮影



1~10期



11~15期



16~20期



21期以降

## 中央大学放送研究会 創立45周年記念式典



若さあふれる現役集合

# 現役三十名参加

パーティーには、現役約三十人が参加し、現在の放研活動の様子を聞かせてくれました。世代を超えたコミュニケーションができたのは、なによりの成果だと思えます。OBからの出欠のハガキの整理、当日受付、名札記入などのお手伝いを戴き、ありがとうございました。

### ◆現役委員長挨拶

私たちは、現在、アナウンス、技術、制作、映像、劇の五部に分かれて日々精力的に活動しております。また、春と秋に番組発表会を行い、成果を大学内外にアピールしています。さらに、他大との交流として各種コンテスト、各校番組発表会への参加などを実施しています。

このように活動ができるのも、ここにお集まりの偉大なる先輩のおかげと感謝し、本日、このような交流の場を持てたことを、大変喜んでいきます。今後、放研が五十年、百年と繁栄していくことを願って、私のスピーチを終わらせて戴きます。

(要旨)



会活動を語る  
柳沢くん

### ◆横林くん挨拶

私は、この五月二日にNHKアナウンサーの内々定を戴きました。中大からのNHKアナは十八年ぶりとのこと、嬉しいと同時に、大変なことになってしまった、というのが正直な感想です。

NHKに合格できたのは、本日司会をされている吉田填一郎さんの力が大きかったとおもいます。今年二月、日本テレビに最終面接まで残り、結局敗退して吉田さんと社員食堂で食べた柳川井の悔しい味をいまだに憶えています。それを跳ね除けてNHKに入れたのも、ひとえに吉田さんのアナウンス指導があればこそと感謝しています。私もアナウンサーになってからは、吉田さんのように、後輩の面倒をしっかり見たいと思っています。

本日は高い所から、感想を述べさせて戴き、どうもありがとうございました。

(要旨)



決意を胸に横林くん



スナップ  
アラカルト





## OB会ホームページ紹介



今回の創立45周年記念事業では、フルカラーの「マイトーク記念号」発刊に併せて、インターネットに「OB会ホームページ」を開設することが企画され、現在、最後の仕上げにかかっています。

インターネットは、情報時代の寵児として瞬く間に地球上を網羅し、日本でも700万人以上の人がビジネスにホビーに活用しているメディアです。既に、中央大学は立派なホームページを持ち、放研現役も手作りのしゃれたホームページを運用しています。

テレビメディアの誕生に呼応して設立された放研のOBとしては、この無限に可能性を秘めたメディアに無関心であろうはずがなく、とんとん拍子に企画がまとまり、突貫工事で記念パーティーでの披露にこぎつけました。

水上会長は、「インターネットは、国を超え、民族を超えて世界をカバーするメディアです。OB諸君は全国に広がり、これからは海外で活躍する人も多くなることでしょう。このホームページが、二十一世紀のOB会の情報発信基地として定着し活用されることを期待しています（挨拶文より）」と述べられ、OB会ホームページの可能性を示唆されています。

### 1. 会長挨拶



水上先生

中央大学放送研究会は、昭和27年7月1日に産声を上げ、半世紀にわたる長い歩みを経てきました。発足した当時は、民放ラジオに続いて徐々に開局し、わが国のマスメディアが大きく変容していった時代です。開局当初も、名ばかりの会室に集まる約20名の若者たちは、皆

懐かしい写真



会室風景(昭和38年頃)



**編集後記**  
 創立四十五周年記念事業の一環として、OB会機関誌「マイトーク」のカラー記念号を発刊することになったのは、記念パーティーの雰囲気や会員全員で共有したかったからです。今回は、全国各地から百六十名に及ぶOB諸氏が参加され、現役も含めて二百名にも達する世代を超えた交流で短くも充実した二時間を過ごしました。そのエネルギーが、誌面から少しでも感じ取って戴ければ幸いです。  
 電話、FAX、Eメール、インターネットなどの情報の高度化により、人はますます会わずに済んでしまう時代になっていきます。しかし、少しの時間でも会うことは、何百通の手紙にも増して積年の無沙汰を瞬時に解消してくれる効力があるのです。  
 間もなく二十一世紀、その二千年には創立五十周年が予定されています。この大イベントに、多くのOB諸氏が集い、共に「ふっふっ」を満喫することを期待して、編集子のペンを置かせて戴きます。

### メニュー

- ☆会の沿革・活動  
 会長挨拶／役員・幹事会紹介／会則／CHKの歴史
- ☆OB会トピックス  
 創立45周年記念パーティ／マイトーク最新号内容／新会員紹介
- ☆新旧フォトグラフ  
 懐かしい写真／周年記念写真／現役活動写真
- ☆ヒヤ・アンド・ゼア  
 会員からのメール紹介／会員からの手紙紹介／同期会ニュース

※現在、このホームページは仮のサーバに置いてありますので、正式なサーバが決まりしだいアドレスをご通知致します。